

第2期三股町「まち・ひと・しごと創生総合戦略」 について

1. 背景

本町の人口は、5年に一度実施される国勢調査結果をみると、1975(S50)年から2020(R2)年まで、**45年間増加**し続けています。

一方、この45年間における人口の構造をみると、総人口に対する年少人口(0-14歳)と生産年齢人口(15-64歳)の割合は低下、高齢人口(65歳以上)の割合は上昇しており、**少子高齢化が確実に進行**しています。

このような中、近年は、死亡者数が出生者数を上回る**自然減**の傾向にあるほか、**社会増(転出者よりも転入者の方が多い状態)の増加幅が縮小傾向**にあり、国立社会保障・人口問題研究所の推計(H30年推計)によると、**本町の人口は、2020(R2)年をピークに減少に転じると予測**されています。

近い将来の人口減少は、町民生活の活力低下を招くばかりでなく、地域経済や町の財政にも大きく影響を及ぼします。

2. まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

今後直面する人口減少によって生じる様々な課題を克服し、持続可能な三股町を実現するための地方創生の取組の指針として策定したのが、**三股町まち・ひと・しごと創生総合戦略**です。

この戦略は、2015～2019(H27～R1)年度を第1期、2020～2024(R2～R6)年度を第2期とし、**切れ目のない取組を推進していく**ものです。

また、総合戦略は、4つの基本目標と、分野ごとに分けた施策、そして、施策に関連した具体的な事業という3層構造となっています。

3. 総合戦略に掲げた取組の効果検証について

総合戦略に掲げた取組をより効果的に進めていくために、それぞれに数値目標を設定し、毎年度、達成状況の確認及び外部の有識者の方のご意見も参考にしながら、効果検証を実施しています。

実施する効果検証は、前年度に実施した取組が対象となりますが、前年度(令和2年度)から第2期総合戦略が開始され、今年度行う効果検証は、第2期総合戦略の初年度の効果検証となります。

なお、効果検証は、以下のとおり、内部及び外部評価により行いました。

【内部評価】

総合戦略に掲げた、各施策の数値目標に対する達成度を算出及び点数化し、4つの基本目標ごとに、a、b、c、dの4段階で評価したものを。

【外部評価】

外部の有識者で構成する、「地方創生推進会議」の委員の方が、4つの基本目標ごとにA、B、C、Dの4段階で評価したものを。

<評価区分の目安>

- a、A:成果が出ている。
- b、B:一定の成果が出ている。
- c、C:一部で成果が見受けられるが、改善が必要。
- d、D:基本目標の達成が見込めない。